

有機農業を基軸としたまちづくりと循環型産業の展開

木更津市の取り組みと挑戦



オーガニックなまちづくり



地域循環共生圏



食育と地域経済



有機農業をまちづくりの“中心軸”に

2016年(平成28年) 「オーガニックなまちづくり」宣言



農地の約8割が水田であり、古くから稲作や蓮田が地域の暮らしと文化の基盤を形成

-  高齢化と担い手不足
-  住宅開発による農地の減少
-  市民と農業との関わりが希薄化



農業の再定義



「食」を市民の暮らしの中心と捉え、農業を食と生産現場を結びつける「要」として見直す

有機農業の推進による多方面との連携



環境保全



食育



地域経済



観光

多様な分野との連携可能性



「オーガニックなまちづくり」の特色

公共調達と学校給食 — 安定した販売と信頼の循環

給食食材の公共調達システム



安定した販路の確保は、農家が有機農業への転換を決断する大きな後押し

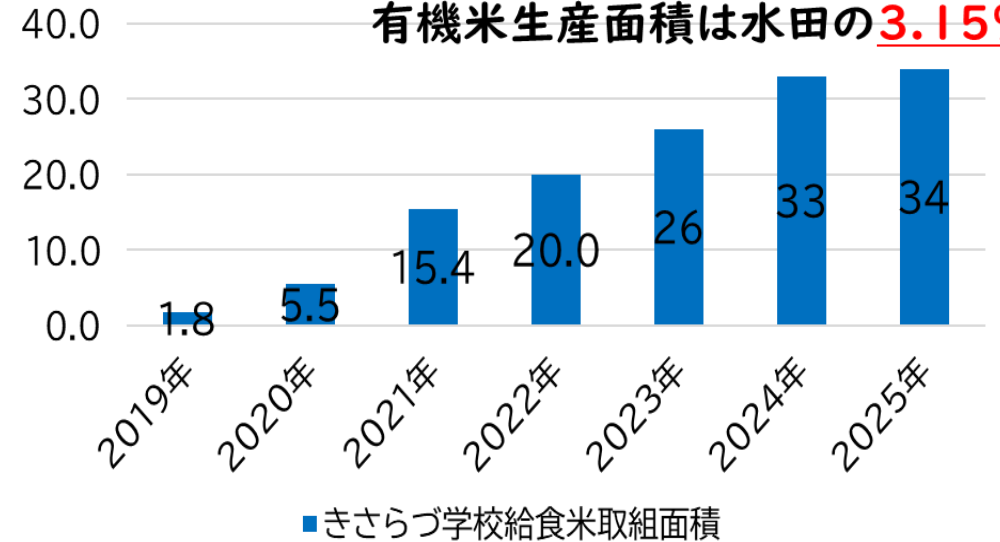
教育との連携

- 田植えや粟刈りなどの農業体験を通じて、食のありがたみを学ぶ
- 次世代の地域住民が農業と自然への理解を深める機会を提供



成果と現状

取組面積は30haを超え!
有機米生産面積は水田の3.15%



給食への有機米提供日数

96日分

有機米生産者数

21名

⚠ 課題: カメムシ被害などへの対策が必要

「農業が教育と暮らしを支え、
暮らしが農業を支える」

オーガニックビレッジ事業と地域での広がり

🌻事業の採択と背景

2022年度(令和4年度):千葉県で初となる
「オーガニックビレッジ宣言」を行う

2022年度(令和4年度)から展開された「みどりの
食料システム戦略交付金」を活用

- ✓ 有機米の生産・活用拡大のための設備整備
- ✓ 有機農産物の栽培拡大
- ✓ 加工品開発
- ✓ 研修支援

千葉県の補助金を活用し、
生産機器の導入



負担軽減と効率化を実現



🌱多品目への展開

🍏 ブルーベリー

🌿 蓮根

小麦

🌱 大豆

🌻 JAS認証取得: 16 団体達成

🏠付加価値の創出



「地域資源の循環と付加価値化」の象徴として、持続
可能な地域経済の実現に向けた重要な一歩

➡新しい地場産業の芽として地域経済の多様化を後押し

これまでの主な有機農業関連支援

【2019年度（令和元年度）】

- ①県事業「環境にやさしい農業」推進事業の活用
 - ・田植機購入及び播種機購入



【2020年度（令和2年度）】

- ①有機米の栽培技術の確立に向けた専門家の指導委託
- ②有機JAS認証取得補助を開始



【2021年度（令和3年度）】

- ①県事業「環境にやさしい農業」推進事業の活用
 - ・2台目田植機購入及び水位計購入



これまでの主な有機農業関連支援

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

2022年度(令和4年度)から2024年度(令和6年度)「有機農業実施計画の実現に向けた取組の実施」

【2022年度(令和4年度)】

①みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

- ・有機レンコンを昆布を掛け合わせた「れんこん子持ち昆布」を開発し、市内道の駅で販売
- ・有機大豆、有機サツマイモの実証栽培
- ・きさらづ学校給食米」ふるさと納税用米袋
- ・有機米収量向上の実証(土壌診断キット購入)
- ・木更津東高校と有機農場との連携による新商品開発
- ・学校給食自校炊飯実証
- ・みりんの製造etc



これまでの主な有機農業関連支援

【2023年度（令和5年度）】

①「環境にやさしい農業」推進事業の活用（県事業）

- ・乗用の水田除草機（ウィードマンの購入）

②みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

- ・真空パックキューブ機械の購入
- ・規格外米を米粉にして活用したバームクーヘン
「おこめのぼうむ」を商品開発し、市内道の駅で販売
- ・有機的ほ場の拡大に向けた取組
（フォーラム開催・マニュアル作成等）
- ・学校給食自校炊飯実証
- ・有機的管理ほ場で生産された米の活用
（真空パックキューブ機械）
- ・検討会開催（農機具メーカー等民間参画）



これまでの主な有機農業関連支援

【2024年度（令和6年度）】

- ①みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用
- ・土壌診断及び結果に基づいた研修会の開催
 - ・有機ブルーベリーを活用したフルーツソース、
「ブルーベリーソース」を商品開発し、市内道の駅で販売



みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用

令和2025年度（令和7年度）から2027年度（令和9年度）「飛躍的な拡大産地の創出」

【2025年度（令和7年度（予定））】

- ①みどりの食料システム戦略緊急対策交付金の活用
- ・有機水稻先進地視察・及び講習会の開催
 - ・有機にんじんを活用したポタージュスープを製作



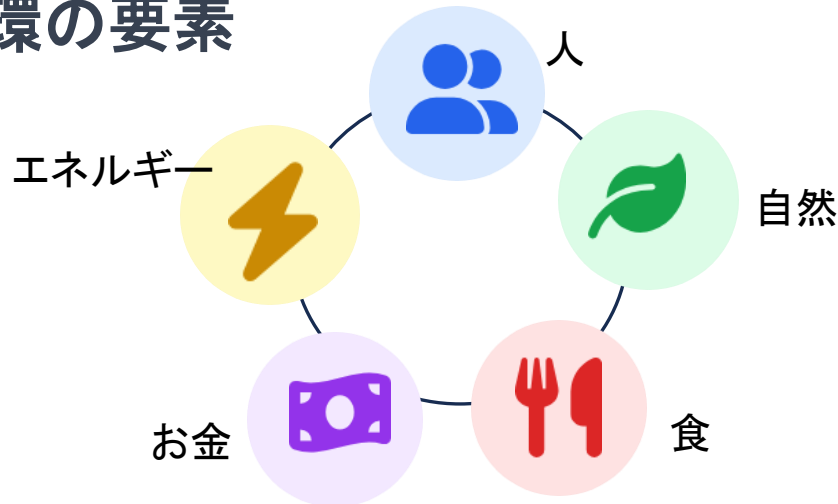
循環の仕組み — 地域循環共生圏とアクアコイン

地域循環共生圏

🔄 環境省が提唱
地域内の「人、自然、エネルギー、食、お金」を
循環させ、地域の自立性と持続可能性を高める
仕組み

2018年(平成30年)日本の第5次環境基本計画で初めて
提唱され、地域開発やSDGsの地域化を支援する環境
政策の指針

循環の要素



電子地域通貨「アクアコイン」



➡ 市内約1,000店舗で利用可能。
市民・事業者・行政をつなぐ「**経済の血流**」
として機能

アクアコインの効果

- ・ 地域内経済循環の促進
- ・ 環境保全活動やボランティアへのインセンティブ
- ・ ウォーキングなどの健康活動への活用

ダウンロード数
約4万件

健康ポイント登録数
1万人超

ツーリズムへの発展 — 有機農業・里山・里海の循環

交流人口と関係人口の創出

- ・オーガニックなまちづくりは、農業の振興に留まらずツーリズムへと発展。
- ・都市部からの交流人口や関係人口を創出する新しい価値を模索。



🌱 クルックフィールズなどの施設が、農業、食、アート、環境を融合させた体験型拠点として機能

🌊 盤洲干潟では、環境学習やコアマモの植栽活動が行われ、貴重な生態系の保護と活用

有機的な循環とツーリズムの融合

🌱 有機農業

体験型農業や食の体験



🌲 里山

自然体験や再生活動

いっせんぼくの木道



🌊 里海

環境学習や
コアマモの植栽活動

コアマモとアサリ



オーガニックツーリズム



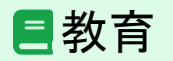
経済



環境



観光



教育

人と産業のネットワークづくり

多様な主体の協働

👥 多様なステークホルダー

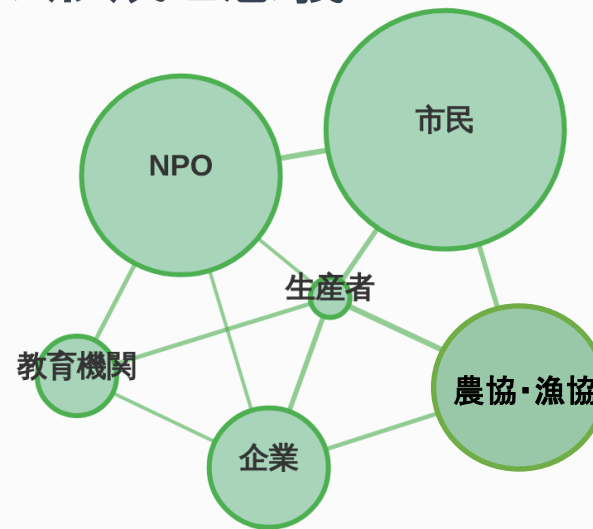
- ・ 生産者
- ・ 教育機関
- ・ 企業
- ・ 農協・漁協
- ・ NPO
- ・ 市民

🤝 分野を超えた協働

様々な主体がそれぞれの立場で積極的に関与し、分野を超えた協働

電子地域通貨「アクアコイン」は、経済的な関係性を広げるだけでなく、農業体験や環境活動を通じて社会的なネットワークも強化

ネットワークの形成と意義



👛 経済的ネットワーク

アクアコインを通じて、地域内での経済循環が促進され、事業者同士の連携。

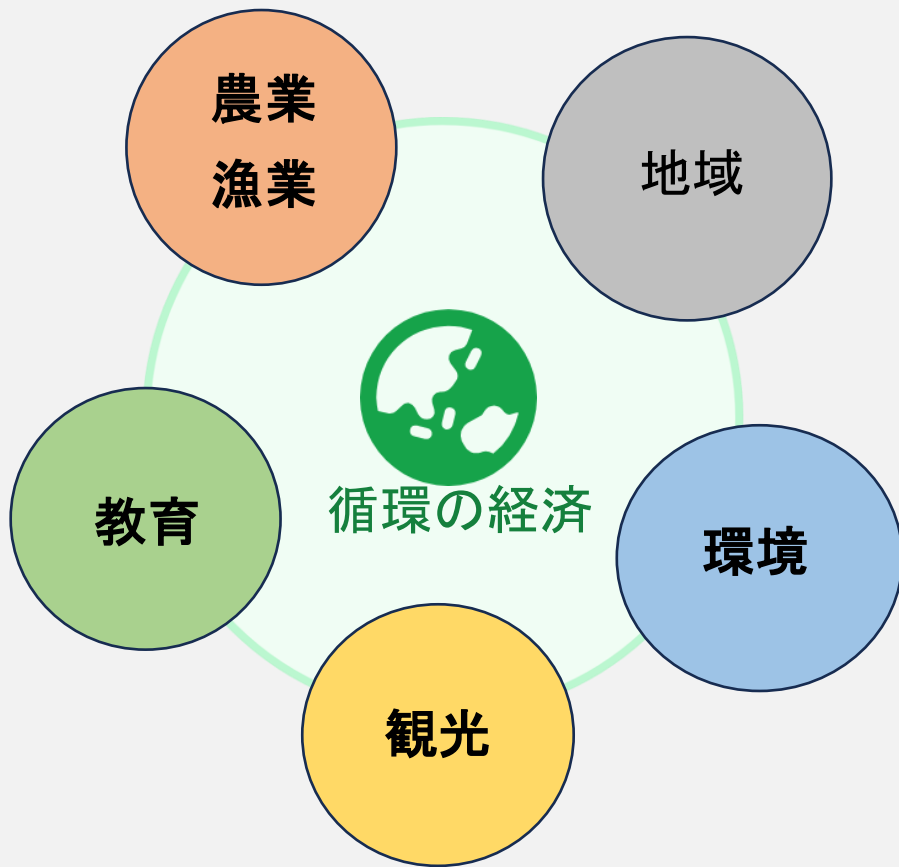
❤️ 社会的ネットワーク

農業体験や環境活動を通じて、人々の間の絆が深まり、地域社会の結束が強化

市民の意識の変化

“自分の仕事地域未来につながっている”という意識。

これから — オーガニック・エコノミーへ



木更津市が目指す社会の姿

地域循環共生圏を発展させ、「オーガニック・エコノミー（循環の経済）」へと進化していきます。



互いに支え合う関係

農業・漁業、環境、観光、教育、地域が互いに支え合い、経済活動が環境再生と社会の豊かさに結びつく



循環する資源

お金、エネルギー、学び、人の思いが地域の中をめぐり続ける

持続可能な地域社会の実現



環境の再生



食の安全



地域の活力



人々の笑顔

木更津市が描く「オーガニック・エコノミー、目指す 産業都市」の姿

地域がつながることで
新しい価値が生まれる

